

作成日(改訂日) : 2020 年10 月28 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : オリオン水和剤 40
 会社名 : 協友アグリ株式会社
 住所 : 東京都中央区日本橋小網町 6番1号 山万ビル
 担当部署 : 普及・マーケティング部
 電話 : 03-5645-0706
 FAX : 03-3639-5299
 使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の要約

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分 3
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入)	区分外
皮膚腐食性・刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
皮膚感作性	区分外
発がん性	区分 1A
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分 1(神経系、全身性、呼吸器系)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分 1(呼吸器系、腎臓)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 区分 1

* 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険	
危険有害性情報	飲み込むと有毒	H301
	重篤な眼の損傷	H318
	発がんのおそれ	H350
	神経系、全身性、呼吸器系の障害	H370
	長年にわたる、又は反復暴露による呼吸器系、腎臓の障害	H372
	水生生物に非常に強い毒性	H400

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱い説明書を入手すること。(P201)
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
 粉じん／煙を吸入しないこと。(P260)
 取扱い後は手及び顔をよく洗うこと。(P264)
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。(P270)
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
 環境への放出を避けること。(P273)

【応急措置】

飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 暴露または暴露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。(P308+P311)
 ばく露またはその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)
 直ちに医師に連絡すること。(P310)

気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。(P314)
 特別な処置が必要である。(この SDS の 4. 応急措置を参照) (P321)
 口をすすぐこと。(P330)
 漏出物を回収すること。(P391)

【保管】

施錠して保管すること。(P405)

【廃棄】

内容物／容器は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する(地方公共団体が処理を行っている場合には、地方公共団体に委託すること。(P501)

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
 化学名(又は一般名) : アラニカルブ水和剤(殺虫剤)

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	安衛法番号
エチル=(Z)-N-ベンジル-N-[メチル(1-メチルチオエチリデンアミノオキシカルボニル)アミノ]チオ-βアラニナート (一般名:アラニカルブ)	40.0	83130-01-2	無し	4-(7)-1625
シリカ(結晶質)	<40	14808-60-7	(1)-548	(1)-548
シリカ(非晶質)	<19	7631-86-9	(1)-548	(1)-548
界面活性剤等	残量	-	-	-

4. 応急措置

吸入した場合

身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

製品に触れた部分を水または微温湯を流しながら石鹸を使って十分に洗浄する。
 異常が認められる場合には、医師の診断を受ける。

眼に入った場合

速やかに流水にて 15 分間以上の洗浄を行い、眼科医の診断を受ける。
 眼をこすってはならない。
 洗眼は瞼を指で開いて行う。

飲み込んだ場合

直ちに水で口腔内を洗浄する。
 大量の水を飲ませ、可能であれば胃中のものを吐き出させる。
 被災者に意識のない場合には、口から何も与えてはならない。
 速やかに医師の診断を受ける。

最も重要な徴候及び症状に関する簡潔な情報

吸入したり飲み込んだ場合、カーバメート剤共通の中毒症状を呈する。
 いずれの場合でも、中毒の疑いがある場合には直ちに医師の診断を受ける。
 動物実験で硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。
 2-PAM などのオキシムは無効であるので使用しない。
 患者の症状に応じて、硫酸アトロピン製剤の静脈注射又は筋肉注射を適度な間隔で繰り返す。
 硫酸アトロピン製剤の投与は中毒症状が消えるまで続ける。
 必要に応じて酸素吸入や人工呼吸を行う。

5. 火災時の措置

消火剤

火災の状況に応じた消火剤を使用する。

火災時の特定危険有害性

本品は不燃物であるが、本品を含む火災時には、有毒な二酸化硫黄や一酸化炭素及び毒性を有する蒸気が発生するおそれがある。
 粉じんまたは煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。
 激しく加熱すると燃焼するものもある。

特定の消火方法

放水による消火の場合、本品を高濃度に含有する液が河川等に流出しないように注意が必要である。
 周辺火災の場合、速やかに安全な場所に移す。
 周辺火災の場合には、何ら危険を伴わなければ速やかに安全な場所に移動させる。

移動できない場合には、容器とその周辺に散水して冷却させる。
 消火が不可能なら、周辺を防護してそのままなくなるまで燃焼させる。

消火を行う者の保護

必ず自給式呼吸器と適切な保護服を着用して風上より消火を行う。
 火災が発生した場合には、到着した消防署員や警察官に本品が在ることを知らせる。
 鎮火後には本品や消火液が河川等に流出しないように処置をする。
 なお、鎮火後の処置については、製造業者に通報して確認を得るとともに、必要に応じて官公庁の了解を得る。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 適切な保護具(8. 暴露防止及び保護措置参照)を着用して、風上で作業する。
 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
 吸入や接触を絶対に避ける。

環境に対する注意事項

本品は魚介類に対して強く作用するため、河川等に排出されて環境への影響を起こさないように注意する。

除去方法

漏出物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。
 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
 粉塵がたたないように注意して、可能な限り密閉可能な容器に回収する。
 残渣は濡れ雑巾等で拭き取る。
 本品を拭き取った布類は、製造業者に処理を委託するか、少量であれば燃却する。
 屋内で漏洩した場合には、回収作業中と作業後に換気を行う。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

粉塵の吸入、皮膚や眼への接触、及び経口摂取は避ける。
 本品の取扱い時には、暴露防止の為に必ず適切な保護具(8. 暴露防止及び保護措置参照)を着用し、作業中は十分に換気を行う。
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
 作業後には直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。
 作業着は再使用前に洗濯する。
 的確な工業衛生管理に則った換気及び清掃を実施する。
 本品の用途以外に使用しない。

保管

本品の保管は、毒物及び劇物取締法に定めるところに従う。
 直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。
 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 屋内で使用する場合には、作業場の換気を行う。

管理濃度および許容濃度

化学名又は一般名	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(産衛学会)	ACGIH
アラニカルブ	-	-	-
シリカ	0.04 mg/m ³ (遊離珪酸含有率約59% の鉱物の粉塵として)	吸入性結晶質シリカ 0.03 mg/m ³	石英 TWA 0.025 mg/m ³ (R)
		第1種粉塵 吸入性粉塵 0.5 mg/m ³ 総粉塵 2 mg/m ³	
		第2種粉塵 吸入性粉塵 1 mg/m ³ 総粉塵 4 mg/m ³	

上記成分以外に、管理濃度及び許容濃度が設定された成分を含む。

保護具

呼吸器用の保護具	: 防毒マスク
手の保護具	: ゴム手袋
眼の保護具	: 保護ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	: 長袖の作業衣及び長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	: 粉末
色	: 類白色
臭い	: メルカプタン臭
pH	: 8.1(10%水希釈液)

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

沸点	: データなし
融点/凝固点	: データなし
分解温度	: データなし
引火点	: データなし
発火点	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
比重/密度	: 0.16(嵩比重)

溶解性

水に対する溶解性 : 不溶

オクタノール/水分配係数 (log Pow) : データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の保管条件では安定。

避けるべき条件

高温

避けるべき材料

危険な反応の原因となる化学物質は知られていない。

危険有害な分解生成物

燃焼時には一酸化炭素や二酸化硫黄等の有毒なガスが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性

経口	LD ₅₀ 値	: 298 mg/kg、209 mg/kg(♂、♀ラット)
	LD ₅₀ 値	: 264 mg/kg、229 mg/kg(♂、♀マウス)
経皮	LD ₅₀ 値	: >2000 mg/kg(♂♀ラット)
吸入	LC ₅₀ 値	: >2015 mg/m ³ (♂♀ラット)

皮膚腐食性・刺激性

刺激性なし(ウサギ)

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

極度の刺激性あり(ウサギ)

ただし、希釈後(100倍、1000倍)は刺激性なし(ウサギ)

皮膚感作性

陰性(♂モルモット)

発がん性

区分 1A に分類されるシリカをカットオフ値以上含有するため区分 1A とした。

特定標的臓器毒性(単回暴露)

区分 1(神経系、全身性)に分類されるアラニカルブをカットオフ値以上含有するため区分 1(神経系、全身性)とした。

区分 1(呼吸器系)に分類されるシリカをカットオフ値以上含有するため区分 1(呼吸器系)とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

区分 1(呼吸器系、腎臓)に分類されるシリカをカットオフ値以上含有するため区分 1(呼吸器系、腎臓)とした。

カーバメート系殺虫剤に共通の中毒症状(初期症状として、頭痛、目眩、脱力及び嘔気が現れ、後に縮瞳、眼のかすみ、腹部痙攣、唾液の分泌過剰、過剰発汗、下痢及び嘔吐の症状が現れる)を呈すると考えられる。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

LC₅₀(96 時間) : 1.35 mg/L(コイ)
 EC₅₀(48 時間) : 0.1087 mg/L(オオミジンコ)
 EbC₅₀(72 時間) : 10.2 mg/L(藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata*)

13. 廃棄上の注意

本品を直接排水や河川等に廃棄してはならない。
 アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で少量ずつ焼却する。
 大量に廃棄する場合には、製造業者に連絡する。
 知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する(地方公共団体が処理を行っている場合には、地方公共団体に委託する)。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号 : UN2757 カーバメート系殺虫殺菌剤類(固体)(毒性のもの)
 クラス : 6.1
 容器等級 III
 海洋汚染物質 : 該当

輸送の特定の安全対策及び条件

本品の輸送は適用される法令に従って行う。
 運搬に際しては容器に漏れのないことを確認し、転倒、落下、損傷がないよう積み込む。
 容器の落下や転倒等の防止策を講じるとともに、直射日光や雨を遮断するための措置を講じる。
 容器は乱暴に取り扱わない。

15. 適用法令

農薬取締法	登録番号 第 18504 号
毒物及び劇物取締法	劇物(指令第 2 条)
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号・別表第 9):165 の 2 結晶質シリカ 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号・別表第 9):165 の 2 結晶質シリカ
化学物質管理促進法(PRTR)	第 1 種指定化学物質(法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1) 52 アラニカルブ
化審法	優先評価化学物質(法第 2 条第 5 項)を含む
水質汚濁防止法	有害物質(法第 2 条、施行令第 2 条、排水基準を定める省令第 1 条)を含む 指定物質(法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3):アラニカルブ
船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物
労働基準法	疾病化学物質(法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号 1)を含む

16. その他の情報

本品を盗難等で紛失した場合には、速やかにその旨を最寄りの警察署及び製造業者に連絡する。

参考

MSDSnavi(日本ケミカルデータベース株式会社、2020)

連絡先

中毒に関する緊急問い合わせ先:公益財団法人 日本中毒情報センター

中毒 110 番	一般市民専用電話 (情報提供料:無料)	医療機関専用有料電話 (情報提供料:1件 2000円)
大阪 (365日、24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば (365日、9~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

責任の限定について

安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考情報として、当該製品を取扱う事業者提供されるものであって、安全を保証するものではありません。ここに記載された数値は、規格値や品質を保証する数値ではありません。

この安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。当該製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の実状に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この安全データシートを活用されるようお願いいたします。